

いつもお世話になっております。ファクスお借りして恐縮です。ご発注よろしくお願いたします。

書肆心水 FAX 03-6677-0682

# ムスリム女性に救援は必要か

※ムスリム女性とは女性  
イスラーム教徒の意です

ライラ・アブー＝ルゴド 著 鳥山純子・嶺崎寛子訳

## 欧米の自由とイスラームの束縛？

### イスラームに抑圧される女性の解放という言説の構造と諸相

普遍的人権擁護の美名のもとにつくりあげられる〈他者の救済〉というリベラルファンタジーの強制。その言説構造と特質を明らかにし、それにかわる、現実に即した公正さを人類学者が提唱する。

#### ライラ・アブー＝ルゴド

主にエジプトを専門とするアメリカの人類学者、ジェンダー学者。コロンビア大学人類学部教授。ハーヴァード大学より博士号取得。研究テーマは、文化様式と権力、知と表象の政治、ジェンダーの多様性と中東における女性の権利。主な著書に *Veiled Sentiments: Honor and Poetry in a Bedouin Society* (1986/2000), *Writing Women's Worlds: Bedouin Stories* (1993/2008), *Remaking Women: Feminism and Modernity in the Middle East* (1998) [『女性をつくりかえる』という思想』、明石書店、2009年], *Dramas of Nationhood: The Politics of Television in Egypt* (2005) など。

「本書は、ムスリム女性に権利はあるか、あるいは彼女たちに救いは必要なのか、という問いに対する長い回答である。(…)ムスリム女性には権利があるのかと問うのではなく、(…)ムスリム女性の権利」や「抑圧されたムスリム女性」という概念がこの世界でどう作用しているのか、その概念を利用しているのは誰かを問うべきだ、と私は提案する。」(結論より)

目次

はじめに——権利と人生

1 ムスリム女性に（いまだに）救援は必要か  
新たな常識

2 道義的十字軍の認可／権威づけ

3 「名誉犯罪」の誘惑

4 「ムスリム女性の権利」の社会生活

5 権利という領域のただなかに、人類学者として

6 結論 人道主義の記録

新刊 注文取扱返条付 (清藤)	取次番線印	<b>ムスリム女性に救援は必要か</b> ライラ・アブー＝ルゴド 著 鳥山純子・嶺崎寛子訳 ISBN978-4-906917-83-9 C0036 四六判上製 352頁 本体3600円＋税	<b>9月下旬刊</b>
	お名前		

ご注文はJRCへ 03-3294-2177

すべての取次への出荷が可能です。返品は長期にお受け致します。(了解者 JRC 後藤)